

# 行政評価(施策評価シート)

## 1 基本項目

基本目標4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち
基本施策2	自然と調和した安全で快適な都市の形成
施策29	道路
基本方針	だれもが安全で快適に利用できるよう道路機能の充実や適正な維持管理を図ります。

## 2 指標(長期総合計画目標指標)

指標名		現状		H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	目標値 (平成28年度)
指標1	重点整備地区内のバリアフリー整備延長	6.2 km	(平成22年度末)	6.2 km	6.2 km	6.2 km	6.2 km		8.8 km

## 3 施策を構成する事務事業の実施・評価結果

No	事業名	平成27年度実施結果			評価(所管課長)				指標に係る重点事務事業
		決算/円	執行率	進捗状況	妥当性	効率性	有効性	方向性	
1	セットバックの促進と隅切り整備	2,652,415	99.4%	計画どおり完了	○	○	○	A	
2	道路維持保全計画の推進	35,866,800	90.3%	計画どおり完了	○	○	○	A	
3	橋梁の耐震化	974,160	0.6%	計画を見直し完了	○	○	△	B	*
4	羽村駅自由通路の拡幅等整備	-	-	計画を見直し完了	○	○	△	B	
5	奥多摩街道間坂交差点整備に伴う周辺道路(市道第203号線)の整備	43,502,939	96.7%	計画どおり完了	○	○	○	A	

## 4 施策評価

### ① 施策の評価

道路整備については、奥多摩街道間坂交差点の拡幅工事による交通環境の改善、セットバックの促進については、地権者の協力が得られ整備を実施し、「道路維持保全計画」に基づき、舗装の補修を行い安全で快適に利用できる道路機能の保全を図ることができた。

しかし、高齢者や身体に障がいのある人などが円滑に移動できる駅周辺の重点整備地区内のバリアフリー整備は、整備計画を精査し優先順位を決めて事業を進めていく。本年度、羽村駅自由通路の拡幅等整備工事は、事業費の調整に時間を要したため、工事施工協定の締結が遅れた。羽村堰下橋の耐震補強等工事については、効率的な工法を見直す必要が生じたため、事業を見直し実施していくとした。

道路維持管理は、捨て看板の撤去など、市民等との連携を図り、協働による道路の維持保全を推進することができた。

### ② 今後の方向性(改善への取組み等)

幹線道路や狭い道路の整備は、地権者等の協力を得ながら、事業を確実に推進していく。また、「道路維持保全計画」における、舗装補修箇所の優先順位について、道路ストック点検結果等を考慮し、見直しを行ったうえで補修を実施していく。

橋梁の耐震化については、引き続き「橋梁長寿命化修繕計画」に基づき実施し、羽村駅自由通路の拡幅等整備工事についても、関係部署との調整を図り、自由通路の早期完了を目指していき、安全で快適な道路環境の整備に努めていく。

1.基本項目		作成部署	建設部			土木課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
1	セツバックの促進と隅切り整備	年				
01		年				
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	29	道路	事業番号
						2

2.事業の概要

事業内容	狭あいな道路のセツバックを促進するとともに、通行に支障のある交差点について隅切りの整備を進めます。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	建築基準法に基づくセツバック等について、積極的に市民に周知し、狭あい道路の減少につなげていく。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成26年度(現況)	3か年計画		
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業内容 事業量等	セツバック部分等の舗装 面積 280㎡ 延長 240m  市道第7085号線道路新設 工事(測量・設計・施工) L=63m、W=5.0m	セツバック部分等の舗装 面積 280㎡ 延長 240m	セツバック部分等の舗装 面積 280㎡ 延長 240m	セツバック部分等の舗装 面積 280㎡ 延長 240m

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成26年度(現況)		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	2人	520H	1人	160H	1人	160H	1人	160H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成26年度(現況)	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	13,590	3,000	3,000	3,055
人件費(係長職)	0	0	0	0
人件費(主任・主事職)	3,773	576	576	576
総事業費(合計)	17,363	3,576	3,576	3,631
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	17,363	3,576	3,576	3,631
財源内訳(合計)	17,363	3,576	3,576	3,631

③コスト計算

ア 市民 56,412 人における1人あたりのコストは、 63 円  
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円  
 ウ 成果物 の 出来高 のコストは 円

※ 対象者:

**Do【実行】** 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

狭あい道路等整備方針に基づき、セットバック部分233㎡の舗装を行った。年度目標値は達成していないが、市民からの要望個所については全てセットバック舗装を実施した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	3,000,000	▲ 331,000	2,669,000	2,652,415	99.4%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
市民に対し広報及び市公式サイトにおいて、建築基準法に基づくセットバック等について周知するとともに、セットバック部等の舗装を行い、狭あい道路の整備を図った。	引き続き市民に対し広報及び市公式サイトにおいて、建築基準法に基づくセットバック等について周知するとともに、セットバック部等の舗装を行い、狭あい道路の整備を図った。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
セットバック部分の舗装	面積 280㎡	面積 233㎡

**Check【評価】**

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

8.評価

△・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点)

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高 [効率性]	
低	低	
←	→	
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	

**Action【改善】**

事務事業から導かれる課題と今後の方向性

評価(所管課長)
狭あい道路のセットバック舗装の整備を実施し、市民生活の利便性と安全性の向上が図れた。

1.基本項目		作成部署	建設部			土木課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
2	道路維持保全計画の推進	年				
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	29	道路	事業番号 4

2.事業の概要

事業内容	道路維持保全計画に基づき、安全で快適な道路環境を保つため、効率的な手法により、維持補修を実施します。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	「予防保全」的な維持管理を実施し、道路施設の延命化やライフサイクルコストの縮減を図ります。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成26年度(現況)	3か年計画		
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業内容 事業量等	市道補修等工事 市道第202、2102、7023号線 L=574m  舗装構造評価(FWD)調査  道路ストックの総点検 ・路面性状調査L=15km ・道路標識施設点検11箇所 ・歩道橋施設点検 2箇所 ・法面・擁壁等の構造物点検L=1.6km	市道補修等工事 市道第1003、2148、4057、6001、7085号線L=715m  道路ストック総点検をふまえた道路維持保全計画の改訂	市道補修等工事 (道路維持保全計画に基づく整備の実施)  舗装構造評価 (FWD)調査	市道補修等工事 (道路維持保全計画に基づく整備の実施)  舗装構造評価 (FWD)調査

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成26年度(現況)		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	1人	80H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	3人	640H	3人	480H	3人	480H	3人	480H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成26年度(現況)	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	37,875	41,610	51,200	51,200
人件費(係長職)	0	404	0	0
人件費(主任・主事職)	6,964	5,182	5,182	5,182
総事業費(合計)	44,839	47,196	56,382	56,382
国庫支出金	1,980	3,300	0	0
都支出金	4,482	1,290	7,000	7,000
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	38,377	42,606	49,382	49,382
財源内訳(合計)	44,839	47,196	56,382	56,382

③コスト計算

ア 市民  人における1人あたりのコストは、 円  
 イ 対象者  人における1人あたりのコストは、 円  
 ウ 成果物  の出来高  のコストは  円  
 ※ 対象者:

**Do【実行】** 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか  
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

市道5路線、633mについて、舗装補修等の工事を行った。  
 また、平成26年度に実施した道路ストック点検結果を考慮し、道路維持保全計画の改訂を行った。  
 なお、事業費については、予定していた金額よりも低い金額で契約できたことから、事業費を見直した。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	41,610,000	▲1,893,000	39,717,000	35,866,800	90.3%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
舗装構造評価(FWD)調査及び道路ストック総点検結果等を踏まえ、補修工事の優先順位を見直すとともに、舗装打ち替えの厚さ及び範囲等の工法を決定することとした。	道路維持保全計画に基づき舗装補修等工事を実施し、安心して快適な道路環境整備に努めた。また、道路維持保全計画の改訂については、道路ストック点検結果の分析を行い、より効率的な補修工法の選定、最適な補修コストのシミュレーション及び補修対象路線の優先順位の見直しを行った。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
市道補修等工事	715m	633m

**Check【評価】**

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	今後の方向性						
<p style="text-align: center;">高 [妥当性・有効性]</p> <p style="text-align: center;">↑</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">B:事業の進め方の改善の検討</td> <td style="width: 50%;">A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">← C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 → [効率性]</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: center;">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">低</p>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	← C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 → [効率性]		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当						
← C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 → [効率性]							
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討							

**Action【改善】**

事務事業から導かれる課題と今後の方向性

評価(所管課長)
安全で快適な道路環境を保つため、道路維持保全計画に基づき、道路の維持補修を実施した。

1.基本項目		作成部署	建設部			土木課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
3	橋梁の耐震化	平成 25 年	その他	自治事務(市独自)	業務委託(全部)	○
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標 4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	29	道路	事業番号	5

2.事業の概要

事業内容	震災時の避難路・運搬路となる橋梁の安全・安心を確保するため、橋梁の耐震化を図ります。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	橋梁の長寿命化が図れるとともに、安全性・信頼性を確保することができる。
------	-------------------------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成26年度(現況)	3か年計画		
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業内容 事業量等	耐震補強等工事実施設計 (羽村堰下橋、羽村橋、堂橋)	耐震補強等工事 (羽村堰下橋)	耐震補強等工事 (羽村橋・堂橋)	

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成26年度(現況)		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	1人	120H	1人	560H	1人	480H	0人	0H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成26年度(現況)	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	7,560	141,426	28,920	0
人件費(係長職)	0	0	0	0
人件費(主任・主事職)	436	2,015	1,728	0
総事業費(合計)	7,996	143,441	30,648	0
国庫支出金	3,630	63,800	12,700	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	16,000	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	4,366	63,641	17,948	0
財源内訳(合計)	7,996	143,441	30,648	0

③コスト計算

ア 市民  人における1人あたりのコストは、  円  
 イ 対象者  人における1人あたりのコストは、  円  
 ウ 成果物  の出来高  のコストは  円

※ 対象者:

**Do【実行】** 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了  計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す)  遅延  中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

羽村堰下橋耐震補強等工事について、簡易型総合評価指名競争入札方式による工事発注を行ったが、指名業者より「評価項目算定資料」の提出がなく、入札が中止となった。また、指名替えを行い、指名競争入札を実施したが施工体制が確保できない等の理由により入札が不調となり、年度内での工事完了が困難となったため、施工方法等の見直しを行い、翌年度に繰越しを行い工事を施工することとした。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	141,426,000	24,086,000	165,512,000	974,160	0.6%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
計画に基づき、橋梁の長寿命化及び安全性・信頼性を確保するため、3橋の耐震補強等工事の実施設計を行った。	羽村堰下橋耐震補強等工事施工時の、さらなる安全を確保するため、仮設工法について設計の見直しを行い実施することとなった。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

⇒

**Check【評価】**

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

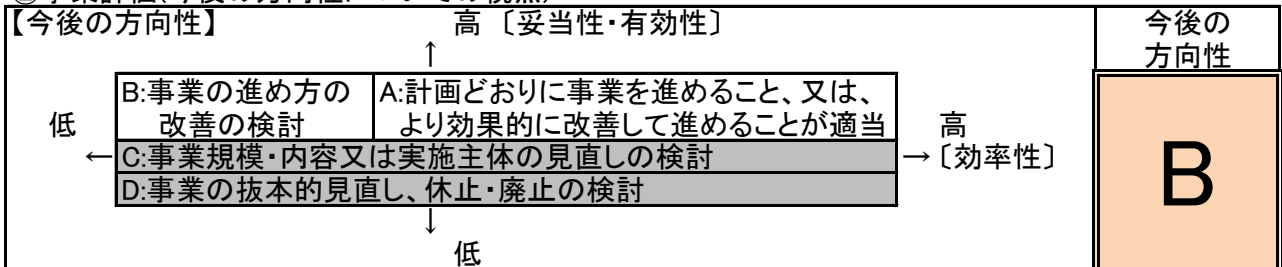
8.評価

△・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	△

②事業評価(今後の方向性についての視点)



**Action【改善】**

事務事業から導かれる課題と今後の方向性

評価(所管課長)
羽村堰下橋耐震補強等工事について、工事の契約に至らなかったため、平成28年度に工事を実施する。

1.基本項目		作成部署	建設部		建築課		
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理	
4	羽村駅自由通路の拡幅等整備	平成 17 年	その他	自治事務	業務委託(全部)	○	
01		年					
02		年					
03		年					
04		年					
05		年					
関連課		田木課・企画政策課					
基本目標	4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	29	道路	事業番号	6

2.事業の概要

事業内容	羽村駅自由通路の拡幅等について東日本旅客鉄道(株)と協議を進め、自由通路を道路施設として拡幅することで、駅利用者並びに東西地区間の通路利用者の利便性や安全性の向上を図ります。
根拠法令	
条例	
要綱等	青梅線羽村駅自由通路拡幅等整備事業に関する基本協定

3.成果指標

成果目標	自由通路の拡幅により、駅利用者や東西地区への通行利用者の利便性や安全性の向上を図るとともに、駅周辺の商業等の活性化を図る。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成26年度(現況)	3か年計画		
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業内容 事業量等	JR東日本八王子支社との協議・年度協定締結 設計	JR東日本八王子支社との協議・年度協定締結 拡幅等工事	JR東日本八王子支社との協議・年度協定締結 拡幅等工事	

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成26年度(現況)		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	240H	1人	240H	1人	240H	0人	0H
主事・主任職	1人	240H	1人	240H	1人	240H	0人	0H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成26年度(現況)	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	10,314	228,300	399,500	0
人件費(係長職)	1,203	1,210	1,210	0
人件費(主任・主事職)	871	864	864	0
総事業費(合計)	12,388	230,374	401,574	0
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	74,000	134,631	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	12,388	156,374	266,943	0
財源内訳(合計)	12,388	230,374	401,574	0

③コスト計算

ア 市民	56,412	人における1人あたりのコストは、	4,084	円
イ 対象者	56,412	人における1人あたりのコストは、	4,084	円
ウ 成果物		の出来高		円

※ 対象者:



**Do【実行】** 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

年度当初に東口階段改修工事が受託工事に変更になり、事業費全体が当初予算を大きく上回る金額が提示された。全体事業の工程および工事費の調整に時間を要したが、全体工事の協定が締結された。

現年度予算については全額減額補正し、新たに補正予算を計上した。

受託工事は、年度内工事着手に至らなかったが、次年度以降早期完成を働きかけていく。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	228,300,000	▲ 228,300,000	0	0	-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
青梅線羽村駅自由通路拡幅等整備事業に関する自由通路拡幅の設計協定及び青梅線羽村駅自由通路拡幅等整備事業に関する店舗支障移転の設計協定の締結により、実施設計が完了したが、施工協定締結に至らなかった。なお、基本協定の変更により、東口階段の位置変更に関する設計を市が実施した。	JR側の安全面の確保から、東口階段改修工事が市施工で行えなくなり、自由通路と東口階段改修工事を合わせてJR側の受託工事として見直し、全体工程と工事費について協議を重ね、全体工事の協定が締結された。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

**Check【評価】**

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	△

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性					
低	<table border="1"> <tr> <td>B:事業の進め方の改善の検討</td> <td>A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		低	B
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当								
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討									
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討									

**Action【改善】**

事務事業から導かれる課題と今後の方向性

評価(所管課長)
全体工事の協定が締結された。今後は、受託工事の早期完成を働きかけていく。

平成27年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	建設部		土木課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
5	奥多摩街道間坂交差点整備に伴う周辺道路(市道第203号線)の整備	平成 25 年	その他	自治事務	業務委託(一部)	○
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標 4	ひとと環境にやさしい安全で快適なまち	施策区分	29	道路	事業番号	7

2.事業の概要

事業内容	東京都が行う都道29号線(奥多摩街道)間坂交差点改良工事に併せて、これに接続する市道整備工事を行います。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	奥多摩街道交差点はカーブがきつく視界が悪いため、交通事故が多発している。また、歩行者が交差点を横断する際にも非常に危険な状態である。さらに、奥多摩街道(上下線)から接続する市道への右折車両による渋滞が発生している。このようなことから、都施工による奥多摩街道拡幅に併せ、市道第203号線の道路線形等を改良して交通安全の向上を図る必要がある。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成26年度(現況)	3か年計画		
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業内容 事業量等	用地買収等交渉	用地買収 物件補償 補償代行工事(設計・施工) 排水施設改修工事等	都道道路改良工事施工に 合わせて市道部の実施設計 及び改良工事	都道道路改良工事施工に合 わせて市道部の実施設計及 び改良工事

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成26年度(現況)		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	40H	1人	160H	1人	40H	1人	40H
主事・主任職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成26年度(現況)	平成27年度	平成28年度	平成29年度
事業費	0	49,249	0	0
人件費(係長職)	201	807	202	202
人件費(主任・主事職)	0	0	0	0
総事業費(合計)	201	50,056	202	202
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	8,800	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	10,000	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	201	31,256	202	202
財源内訳(合計)	201	50,056	202	202

③コスト計算

ア 市民  人における1人あたりのコストは、  円  
 イ 対象者  人における1人あたりのコストは、  円  
 ウ 成果物  の出来高  のコストは  円

※ 対象者:

**Do【実行】** 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか

※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

東京都と連携し地権者と交渉を重ね、用地買収を行い道路拡幅工事を実施した。なお、擁壁工事の施工方法を変更したことにより、事業費の補正を行った。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	49,249,000	▲ 4,242,000	45,007,000	43,502,939	96.7%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
交渉の結果、用地取得及び補償物件について、概ね承諾を得ることができたため、平成27年度において用地取得費、物件補償費、設計委託費、拡幅工事費について予算措置を行った。	道路拡幅工事の完了に伴い、間坂交差点の一部について安全対策を図ることができた。

②成果指標(目標値)を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

**Check【評価】**

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性					
低	<table border="1"> <tr> <td>B:事業の進め方の改善の検討</td> <td>A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		高	A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当								
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討									
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討									
		低							

**Action【改善】**

事務事業から導かれる課題と今後の方向性

評価(所管課長)
東京都が行う奥多摩街道間坂交差点改良工事に伴い、東京都と調整を行い市道第203号線間坂街道の拡幅を実施した。